

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174200384
法人名	社会福祉法人 希望の里
事業所名	グループホームなごみの家
所在地	367-0115 埼玉県児玉郡美里町大字猪俣3189-2 (電話) 0495-75-2020

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月21日

## 【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成12年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算5.9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造ツーバイフォー造り 2階建ての1階～2階部分
------	-----------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
または1日当たり1,000円				

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低 72 歳	最高 96 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは自然豊かな場所に建てられ、向かいには母体である特養がある。法人の他事業所が近いことから、母体法人の行事等にグループホームの利用者が参加したり、グループホームの行事には法人内の他事業所の職員に協力してもらっている。広い敷地を生かし、利用者が一緒に過せる無料の施設や露天風呂をつくっている。また日光浴、盆栽、野菜作りと野外活動にも力を入れ、充実し、自立した生活を促している。日常の暮らしにおいて職員は利用者との会話を大切に、その中から意向や思いを把握して、個々の残存能力を最大限引き出し、本人の自信に繋げ、生き生きとした元気な生活を支援している。そしてホームの生活が楽しく、アットホームなものになるため、職員が一丸となって努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での改善課題については、職員全員で改善に向けた取り組みの方法等について話し合い、法人本部へも、評価結果を報告し、評価を日々のケアに生かしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者が中心となり、職員全員でしっかりと話し合いながら取り組んだ。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの状況説明や諸行事の予定、外部評価結果の報告を行い、話し合いの中から出てくる課題については、改善のための話し合いを行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者の日頃の様子等について家族には、定期的に手紙で報告している。家族の来訪時には、ホームに対する希望や意見が表出しやすいような雰囲気作りに配慮している。家族会、運営推進会議でも意見等を伺っている。また、地域には「ももよの丘四季だより」の発行で情報提供をしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の花火大会の見物場所としてホームを開放したり、小・中学生の体験学習の受け入れ、利用者がホームで作った作品の地域作品展への出品、施設見学など、地域と積極的に交流するようにしている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念をそのままホームの理念とし、事業所独自で具体化した理念を作り上げていない。		地域密着型サービスの理念として何が大切かを考え、グループホーム独自の具体的な理念を作り上げることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員は日勤時に理念を唱和し、お年寄りの視点で物事を考えたり、利用者を自分の親のように接するなど、理念に沿った支援をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の花火大会の見物場所としてホームを開放したり、小・中学生の体験学習の受け入れ、利用者がホームで作った作品の地域作品展への出品、施設見学など、地域と積極的に交流するようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果について会議で報告し、改善点を質の向上につなげるため職員間で話し合い、また改善報告を法人本部にも提出している。今回の自己評価については、管理者が中心となり職員全員で日々のケアを振り返りながら取り組み、サービスの質の向上のために自己評価を役立てている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況説明や諸事の報告、外部評価結果の報告もして、その中から課題を明らかにし、サービスの向上に繋げている。メンバーには家族、職員、老人会の会長等であるが、市担当職員、地域包括支援センター職員の参加はされていない。		介護保険者である町や、地域の高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターが運営推進会議に参加し、ホームの運営について意見してもらうことで、より一層のサービス向上に繋がると思うので、市や地域包括支援センターに、会議への参加を積極的に働きかけていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人本部が町役場に法人の広報を届けているが、町との連携は十分ではない。		管理者が交替した場合などには説明したり、運営推進会議の参加を依頼したりして、ホームの実態を知ってもらい、課題を共有し、協働関係を築くことを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の費用の請求書と共に、利用者の近況を書いた手紙も送っている。利用者の暮らしの様子や健康面等は、家族が来訪された時に報告している。職員の異動等も家族の来訪時に交替の報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との電話や来訪時には、意見や希望、苦情などを表出しやすい雰囲気作りをして、意見等を聞く機会を作っている。また家族会の時にも意見を出してもらい、出された意見等については職員で話し合い、サービスの向上に繋いでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や法人間の異動の際には、利用者へのダメージに配慮して、1ヶ月間の引継ぎ期間を設け、利用者が新しい職員に徐々に馴れてから交替する仕組みを取っている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議で課題を出し合い、勉強会をしたり提携施設の行う研修に参加している。また職員の中に看護師がいるので系列法人のグループホームが合同で2ヶ月に1回研修会を行っている。また、研修報告ファイルがあり、回覧するなど職員はいつでも閲覧出来る。また職員で話し合い、外部研修受講の要望書を法人本部へ提出し、年間計画の中で研修受講の機会を位置づけてもらえるようにした。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者のケアマネジャー研修に参加している。提携しているグループホームや特養の職員と意見交換・勉強会・研修の場もあり、交流を通してサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望者にはホームへの見学、ホーム職員や他の利用者との会話、レクリエーションへの参加、体験入居等しながら、徐々にホームの雰囲気馴染めるよう工夫している。またケアマネジャーと利用者宅に訪問し、ホームへの入居希望者と顔馴染みの関係を築いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で、利用者からは人生の先輩として教えてもらう事も多く、お互いに協働しながら喜怒哀楽を共にし、穏やかな生活が出来る様場面作り等の支援をしている。例えば野菜づくりや漬物等職員が利用者から学んでいる様子が伺えた。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話の中で声かけをし、言葉や表情などから希望・意向の把握に努めている。また把握が困難な人には家族と相談し、本人の行動等も参考にして支援している。趣味などもホームとして出来ることは環境を整えたり雰囲気作りをして支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族に要望を聞き、その為には何が必要か全職員で意見を出し合っ、利用者本意の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアマネジャーを含めた職員で話し合い、本人や家族の希望を聞きながら、定期的に介護計画の見直しを行い、現状に合った計画を作成している。利用者の状態に変化があった時はそのつど、介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院送迎の支援、買物等の特別な外出の支援など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と話し合い納得の上、提携病院をかかりつけ医として事業所との関係を築いているが、必要性及び希望により本人や家族の希望する医療機関で医療を受けられるよう支援している。受診結果については報告してもらい、個別の記録で職員間の共有が出来ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、ホームとして提供できる最大限の支援を伝えたと上で、同一法人の特養へ移ることも可能なこと等も伝え、早い段階から家族・主治医・看護師・福祉施設と話し合いを行い、重度化や終末期に向けた方針を決めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや誘導の声かけは、丁寧な言葉でさりげなくなされている。個人情報の記録は個人名が分からないようにして、プライバシーの確保をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課を無理強いせず、一人ひとりの体調や希望に添って、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の気分や体調に合わせて調理から後片付けも利用者と職員が一緒に行い、食事は利用者と職員全員で食べている。調査当日の盛り付けや彩り、味も良かった。食事中は食べることに集中されている為か、会話が少なく静かだったが、食後はあちこちで話が弾み、和やかな雰囲気であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に曜日は固定していないが、入浴日は週3回であり、夜の希望はないので午後入浴となっている。入浴の嫌いな人に対しては声掛けをしたり入浴剤を入れたりして雰囲気作りをし、最低限の入浴はしてもらうようにしているが、無理強いをしない支援をしている。良い季節には家族等の人と一緒に露天風呂も楽しむことができる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしを共にすることで、本人の得意な事、また何がその人の楽しみになるかを把握し、日々のケアの中で実践している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせて、日光浴や散歩をしたり、ドライブがてらお花見に行ったり、外食や買物に出かけている。また広い敷地を利用しての野菜、盆栽作りなど屋外活動に力を入れている。		
ドライブ					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアの実践をしている。徘徊傾向のある人の為に玄関にチャイムを取り付け、工夫している。公道へ続く道は事務室やキッチンから見えるので見守りをしっかりしながら状況によっては納得してもらうこともあるが、外出願望の強い時はそのつど職員が対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の職員の協力を得て、日勤帯、夜勤帯の消防訓練を、地域の人とも交えながら行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を基に調理し、食事の摂取状況は毎日個別の記録帳に記入し、職員が情報を共有している。食事制限のある人は盛り付けを工夫して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には生活感や季節感のある調度品や備品を家庭的に配置し、廊下は2人で並んで歩ける広さがあり、階段も広く、昇降機を設置し利用者が自由に生活しやすいよう工夫している。廊下の居室のドアには表札や目印を家庭的につけ、戸惑いの無いようにした。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人と家族の意向でその人の大切な物や馴染みの物、趣味の物などが持ち込まれ、居心地良く過せるようにしている。また居室がきれいに整理整頓していないと落ち付かない人には、本人、家族の意向で必要なものだけを置き、すっきりとした居室にするなど、その人に合った居心地よい暮らしが出来るよう工夫がされている。		